
老眼鏡

tky

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

老眼鏡

【Nコード】

N5695C

【作者名】

tky

【あらすじ】

僕はなんで老眼鏡をかけているのだろう僕はドがつくほどの近眼でそれでいて遠くを見ようとしているはずなのに

昔すごく嫌いな教師がいた

いつも何かと僕にからんできて、皆の前で僕にいちゃもんをつけていた

嫌いで嫌いでたまらなかった・・・

でもある日思ってたんだ

こんな人でも何処かいいところがあるのかもなって

必死に探した

しかし卒業式を迎える前に見つけることができたのは、

彼も人間だという事実と

たくさんの彼の欠点と

結局僕も彼もお互いにお互いを嫌っているという事実だけだった

ぼくは近眼だったのに

遠くを見ようとしてたはずなのに

なんで老眼鏡をかけていたんだろう

みえるはずないよね

昔すごくあこがれる奴がいた

顔がよく、背が高く、勉強もでき、運動は学年一できて、誰にでも親切

典型的なカッコイイ奴

比べるほうが間違いだということはわかっていたけれど

どうしても僕が彼に勝っているところを見つけたくて

すごく必死に探した

だけで見つけたのは

彼が僕より冗談がうまいことと

僕が好きだった女の子が彼に恋していることと

僕が彼になりたがっているという事実だけだった

僕は近眼だったのに

遠くを見ようとしていたはずなのに

何で老眼鏡をかけていたんだろう

見えるはずないよね

上司に勧められるままに見合いをし

そのまま成り行きで結婚してしまったが

その女を僕は日に日に嫌になっていった

上司の勧めだから別れることもできないし

しょうがないからいつかのように

彼女のよいところを探してみた

見つけたのは

彼女は一途に刑務所にいる男を愛していて

決して自分を愛さないだろうことと

その一途さだけが彼女の唯一の美点だということだけだった

僕は近眼で

老眼鏡など必要としていないのに

度の強い眼鏡が必要なのに

なんで老眼鏡しかないの・・・

いつも眼鏡だと思って手にとってかけると老眼鏡

いつそのこと付けないでいいやと

全部放置していても

なぜいつの間にか老眼鏡がついているの

誰か僕に

いつ老眼鏡はとれるのか

どうしたら老眼鏡はとれるのか

おしえてくれよ

悲しすぎるよ

こんな人生

(後書き)

コメントください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5695c/>

老眼鏡

2010年12月29日14時41分発行